

政策評価（令和4年度）

政策評価調書

戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・ものの交流拡大戦略					
幹事部局名	観光文化スポーツ部	評価者	企画振興部長	評価確定日	令和4年8月29日

1 政策の目標（目指す姿）

- 本県ならではの魅力が際立つ誘客コンテンツや、観光客のニーズに応える受入環境を充実し、本県が多くの観光客に選ばれることにより、国内外からの誘客を拡大させます。
- 県産食品のブランディングと販路の拡大を進め、特色ある食文化を旅の目的とする集客を拡大するなど、「食」がリードする秋田の活性化を図ります。
- 文化やスポーツによる国内外からの交流人口の拡大を図るとともに、本県の多彩な文化・芸術の継承や、本県スポーツの競技力向上などを進展させます。
- これら活発な交流の基盤となる道路や公共交通など、交通ネットワークの充実にに向けた取組を結実させ、本県の未来を創り・支える交流の一層の拡大を進めます。

2 政策を取り巻く社会経済情勢

- 平成30年5月 ・ 秋田県民会館が閉館した。
- 平成30年9月 ・ J R 東日本の重点販売地域の指定を受けて「秋田県秋の大型観光キャンペーン」を実施した。
- 平成31年3月 ・ 秋田空港に台湾定期チャーター便が就航した。
- 平成31年4月 ・ 令和3年に「東北デスティネーションキャンペーン」の開催が決定した。
- 令和元年7月 ・ 秋田市と共にあきた芸術劇場の建設に着手した。
- 令和2年2月 ・ 「2020 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が開催された。（平成27年から6年連続開催）
- 令和2年3月 ・ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、各ホストタウンで予定されていた事前合宿等も延期となった。
- 令和2年5月 ・ 羽田発着枠政策コンテストの結果、大館能代空港東京羽田線（1日2往復運航）において新たに発着枠の配分を受けることが決定した。
- 令和2年6月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、鹿児島県で開催される第75回国民体育大会が令和5年に延期となった。
- ・ 国の「G o T o トラベルキャンペーン」の開始（7月～）に先立ち、秋田県プレミアム宿泊券を発行した。
- 令和2年12月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、2021 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会の中止が決定した。
- ・ 日沿道「蟹沢 I C ～大館能代空港 I C」間が開通した。
- 令和3年2月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会（鹿角市）の中止が決定した。
- 令和3年7月 ・ J R 東日本との間で「秋田新幹線新仙岩トンネル整備計画の推進に関する覚書」を締結した。
- 令和3年11月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、国では、外国人の新規入国を原則停止した。
- 令和4年2月 ・ 第77回国民体育大会冬季スキー競技会（鹿角市）が開催された。

3 政策を構成する施策の推進状況

3-1 施策評価の結果

施策	施策評価の結果			
	H30	R元（H31）	R2（H32）	R3（H33）
施策4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	B	B	D	D
施策4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	B	B	D	D
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	B	B	D	D
施策4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	C	C	B	C
施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	A	A	A	A
施策4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	B	B	D	D

※施策評価の結果:「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階で判定した結果

3-2 施策評価の概要

【施策4-1】 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化
● 代表指標の達成状況については、①「観光地点等入込客数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の適用による移動自粛や政府の新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の強化に係る外国人の入国制限等の措置により観光入込客数は大きく減少する見込みである。また、成果・業績指標①「延べ宿泊者数」、②「外国人延べ宿泊者数」、③「クルーズ船の寄港回数」も同様に減少する見込みである。 ● 一方、県内在住者を対象とした県内を目的地とする旅行商品や宿泊代金に対する割引事業等の実施により、県民による県内流動を促進したことで、延べ宿泊者数が令和2年並みになるなど観光関連産業の下支えを行った。 ● また、東北デスティネーションキャンペーン期間に合わせたデジタル媒体を活用した情報発信、重点市場である台湾・中国等でSNSによる情報発信の強化等の取組による新たな外国人のフォロワーの獲得等アフターコロナを見据えた情報発信、ターゲットの特性に対応した情報発信に必要となるデータの蓄積等に取り組んだ。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-2】 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進
● 代表指標の達成状況については、①「食料品・飲料等製造品出荷額等」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、令和元年度実績値が1,335億円となり、3年度目標値（1,300億円）の102.7%の水準に達しているが、直近2年度の実績値は2年連続で減少している。また、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴った外食需要の減少などにより、国内の日本酒の課税移出数量が対前年比90.4%と減少しているほか、県が各業種に行ったヒアリング等によると、お土産品等としての売上げが大きい稲庭うどんやいぶりがっこも対前年度比約1割ほど減少しており、3年の目標値を下回る見込みとなっている。 ● コロナ禍により売上げが落ち込んだ事業者を支援するため、昨年度に引き続き、県内31蔵元が連携した統一ラベルの清酒等の販売や特別販売会の実施、通販サイトで県産品を販売している県内事業者への送料や販促費用等の補助を行ったところ、統一ラベル酒は約4,550万円（対前年度比1,650万円増）、特別販売会では約2,000万円（対前年度比200万円増）を売上げたほか、同補助制度では18社の売上げが対前年度比平均107%、注文件数で105%となった。また、首都圏において東京都のアンテナショップ等で利用できる割引券を8万枚配布し、対前年度比140%の売上げとなるなど、県内や首都圏等での日本酒や県産品の販売拡大につながった。 ● また、「あきた発酵ツーリズム」については、コロナ禍にもかかわらずあきた発酵ツーリズム拠点施設の来場者数は堅調に推移している。アフターコロナにおける誘客の増加を見据え、オンラインイベントや発酵カレッジ等による観光誘客プロモーションを実施した。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-3】 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出
● 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-4】 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大
● 代表指標の達成状況については、①「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は「c」判定であり、定量的評価は「C」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。
【施策4-5】 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備
● 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

【施策４－６】 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	
● 代表指標の達成状況については、①「秋田県と県外間の旅客輸送人員数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、３年度実績値も前年度と同程度の水準となることが想定される。 そのような中においても、航空会社・フェリー事業者に対する着陸料等への助成や、バス・タクシー事業者等が事業継続を図るための支援を実施し、広域・地域の両面で交通ネットワークを概ね維持したほか、アフターコロナにおける需要の回復を見据えて、秋田・大館能代空港について、感染防止機能を向上させるための施設改修や備品の購入に対する助成等を行い、必要な取組を着実に実施した。 ● 成果・業績指標①「一般乗合旅客自動車運送事業免許キロ数」については、乗合バス事業者及び市町村に対する運行費助成や路線再編の支援、地域の関係者が一体となった利用促進の取組への支援などにより目標を若干下回ったものの、概ね維持されている。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。	

4 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	● 施策評価の結果は、「A」１施策、「C」１施策、「D」４施策（施策の評価結果の平均点は1.67）であり、政策の定量的評価は「D」。 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

- 定量的評価：施策評価結果を点数化して平均点を算出し、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の５段階に判定する。
・ 施策評価結果の配点 「A」：４点、「B」：３点、「C」：２点、「D」：１点、「E」：０点
・ 判定基準（平均点） 「A」：４点、「B」：３点以上４点未満、「C」：２点以上３点未満、「D」：１点以上２点未満、「E」：１点未満
- 定性的評価：施策の推進状況等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の５段階に判定する。

5 県民意識調査の結果

質 問 文		評価年度(R4)の満足度(割合%)						3期プラン(4年間)の満足度(平均点)			
		十分 (5点)	おおむね 十分 (4点)	ふつう (3点)	やや 不十分 (2点)	不十分 (1点)	わからない ・ 無回答	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)
施策 4-1	国内外から観光誘客が進んでいる。	0.7	5.2	33.2	23.2	17.9	19.7	2.75	2.55	2.40	2.35
施策 4-2	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	2.6	21.0	42.9	12.5	5.1	15.9	3.11	3.14	3.06	3.04
施策 4-3	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	1.7	11.2	38.4	20.7	13.3	14.8	2.81	2.79	2.73	2.62
施策 4-4	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。	3.1	20.1	45.5	14.5	6.7	10.2	2.95	2.91	2.93	2.98
施策 4-5	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.2	12.0	43.4	18.8	11.6	11.9	2.69	2.78	2.72	2.71
施策 4-6	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	1.3	8.8	37.4	23.5	19.0	10.1	2.41	2.53	2.49	2.44

調査結果の認識、取組に関する意見等

- 各施策に関する質問の５段階評価による満足度の平均点は「2.35」～「3.04」であり、施策４－２に関する質問を除いて「ふつう」の３より低かった。施策４－２の質問に対する満足度が最も高く（3.04（対前年度比△0.02））、施策４－１が最も低い（2.35（対前年度比△0.05））結果となり、前年度と比べ満足度が上がったのが１施策、下がったのが５施策となった。
回答では、全ての質問で「ふつう」が最も多かった。
- 「不十分」又は「やや不十分」を選んだ理由や県に求める取組として、満足度の平均点が最も低かった施策４－１に関する質問については、複数の魅力的な観光コンテンツを併せた目的がないと、なかなか難しいのではないかなどの意見があった。
同様に２番目に低かった施策４－６に関する質問では、利便性の高い交通ネットワークとなると不十分などの意見があった。

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

6 課題と今後の対応方針

施策	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
4-1	○ 新型コロナウイルス感染症拡大による影響の長期化等により、県外・国外などでの誘客活動が制約されている。 ● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.35と最も低く、複数の魅力的な観光コンテンツを併せた目的がないと、なかなか難しいのではないかなどの意見があった。 など	○ デジタルマーケティング等により誘客のターゲットを的確に把握するとともに、その特性に応じた最適な観光情報の発信に取り組む。また、インバウンドについては、渡航制限緩和に向けた動向を注視し、継続的な情報発信等により本件の認知度向上を図る。 ● 個人の趣味・嗜好を踏まえた観光コンテンツの充実を図るとともに、自然や食文化、温泉など秋田の特色を生かした滞在型・体験型観光を推進する。 など
4-2	○ 県内食品製造業は、従業者数30人以上の比較的大きな事業所が少なく、1事業所当たりの製造品出荷額等も少ない状況にある。 など	○ 県内食品製造事業者の事業活動の中核を担う人材の育成と共に、生産性向上に向けた事業者間連携や先進技術導入等を支援する。 など
4-3	○ 多くの文化団体等が活動の機会が失われていることに加え、担い手の高齢化で後継者不足や活動を実施するための資金不足等の課題を抱えているほか、若者が文化に触れる機会の確保や育成の観点で取り組んでいる事業への参加が伸びない。 など	○ 文化団体等の活動への助成をはじめ、若者の作品発表機会の充実を図るほか、新たに質の高い音楽の鑑賞や技術指導などを通じた音楽文化の向上を図るとともに、県内外の若者に本県の伝統芸能に関心を持ってもらえるよう、由来等の紹介や実演を組み入れた体験プログラムの作成に引き続き取り組み、県全体で若者育成の機運の醸成を図る。 など
4-4	○ 少子化によりジュニア層の競技人口が減少している中、指導者の不足等により競技能力の高い小中学生が県外校へ進学している。 など	○ 令和4年度より「チームAKITAスタートアップ支援事業」を実施し、競技団体が主体となり、学校の枠を越えた小中高生が競技に取り組める環境を整備し、競技人口の維持・確保に努める。 など
4-5	○ 高速道路の開通見通しが一部公表されていない区間があり、企業誘致や物流、観光振興等への影響が危惧される。 など	○ 関係機関との連携を強化し、高速道路の開通見通しについて、未公表区間を早期に公表するよう国に対して要望していく。 など
4-6	○ 秋田新幹線の岩手県との県境から田沢湖駅までの区間は、急峻な山岳地帯を横断するため、悪天候等による運休や遅延がたびたび発生しており、利用者の利便性が損なわれている。 ● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.44と2番目に低く、利便性の高い交通ネットワークとなると不十分などの意見があった。 など	○ 災害リスクを低減するため、秋田新幹線の新仙岩トンネル整備計画の早期実現に向け、国に対し財政支援の要望をしていくとともに、地域への経済波及効果等を示しながら啓発・広報活動を実施するほか、シンポジウム等を通じて県民等の機運醸成を図る。 ● 運賃支払いのキャッシュレス化やバスロケーションシステム導入による運行位置情報の提供など、デジタル技術を活用して利便性の向上を図る交通事業者等の取組を支援するほか、各市町村の地域公共交通会議等において、今後の交通ネットワークのあり方について議論を促していく。 など

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

7 政策評価委員会の意見

自己評価の「D」をもって妥当とする。